

XMFアップデートを使用したバージョンアップ手順書 XMF編

Rev. 20230519

本資料について

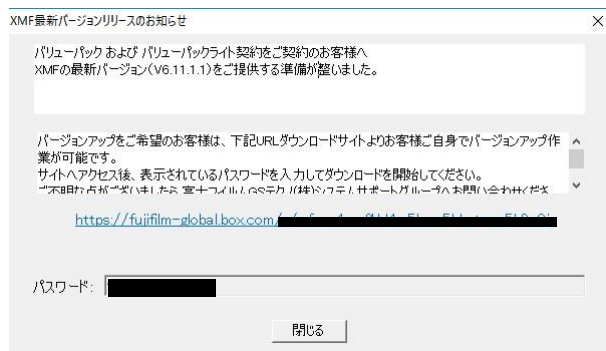
本資料では、お客様ご自身でXMFのバージョンアップを行うための手順を記載しています。
本資料は、XMFServerのデスクトップ画面に[XMF 最新バージョンリリースのお知らせ]が表示されたお客様が対象です。



作業における注意事項を記載します
必ず確認のうえ進めてください



情報を記載します



バージョンアップ前の事前確認



下記をご確認いただき、バージョンアップを行うかをご判断ください。

クライアントPC環境



FFGSサポートタウン XMFリリースノート内「XMFClientOSアプリ対応表」をご確認のうえ貴社のクライアントPC(Windows/MacOS)がXMFに対応しているか事前にチェックしてください。ご確認ください。

非対応の場合はクライアントが正常に動作しませんのでバージョンアップをお控えください。

バージョンアップ所要時間



XMFバージョンアップ
作業目安60～90分

XMFバージョンアップ後、初回起動に時間がかかることがあります。

内訳
バックアップ時間15分(x2回)
インストール時間：30～60分
起動後のジョブのコンバート時間：0～15分

注意事項



必ずXMF Server アプリ及びXMFRemote Server アプリを終了してください。

必ずセキュリティソフトを「無効」にしてください。

WindowsUpdateを実施して最新の環境にしてください。

XMFRemoteを所有している場合は、XMFの作業完了までXMFRemote Server アプリを起動しないでください。

※XMF Server アプリの単体起動につきましては問題ありません。

注意事項



XMFRemoteを所有している場合は同時にバージョンアップを実施してください。

XMFComplete(Smart)とXMFRemoteのバージョンが異なると接続エラーが発生します。
また、以下の順番でバージョンアップを行ってください。

- 1)XMFComplete(Smart)のバージョンアップ
- 2)XMFComplete(Smart)の起動と動作確認
- 3)XMFServer(Complete,Smart)アプリの終了
- 4)XMFRemoteのバージョンアップ
- 5)XMFServer(Complete,Smart)アプリ起動
→XMFRemoteServerアプリ起動
- 6)XMFRemote動作確認

XMFアップデータ バージョンアップ手順書：バージョンアップ前準備

1. インストーラのダウンロード

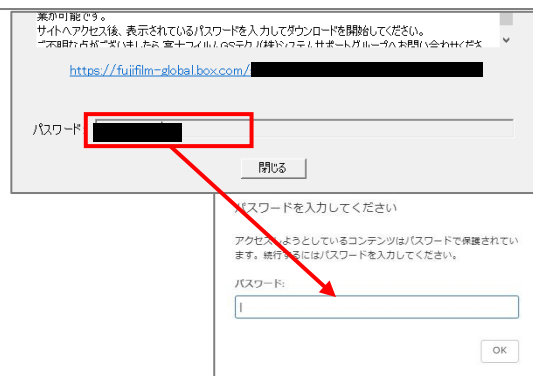
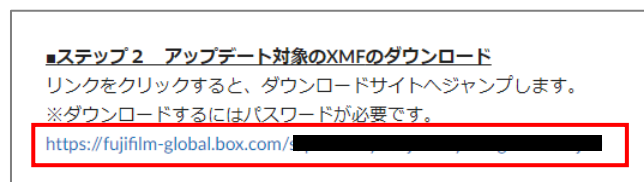
[■ステップ1 製品情報の確認と「バージョンアップ手順」のダウンロード]よりダウンロードした本書に従って以下の作業を実施します。



以下のようなポップアップが表示される場合があります。サインアップやログインは必要ありませんので[x]で閉じてください。



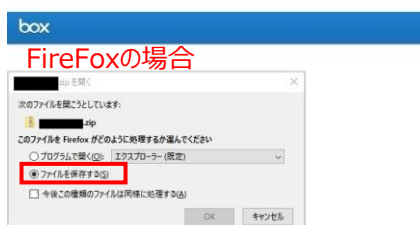
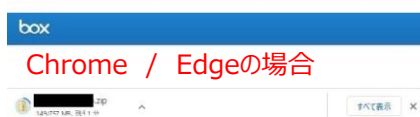
[■ステップ2 アップデート対象のXMFのダウンロード]より、URLをクリックしインストーラをダウンロードします。
 パスワードは[XMF 最新バージョンリリースのお知らせ]に表示されているものをコピー＆ペーストします。



※ブラウザによって英語表記の場合がありますが、動作に問題ありません。

パスワード入力後のインストーラがダウンロードされます。

FirefoxやIEでは、「保存」を選択しないとダウンロードが開始されません。

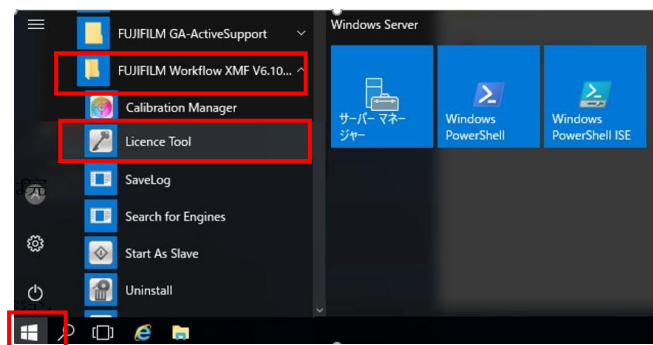


2. ライセンスの更新

バージョンアップに必要なライセンス情報を読み込むため、XMFServerでLicenceToolを開きます。

[スタート]-[FUJIFILMWorkFlow XMF]-
[Licence Tool]をクリック

※画像はWindowsServer2016になります。

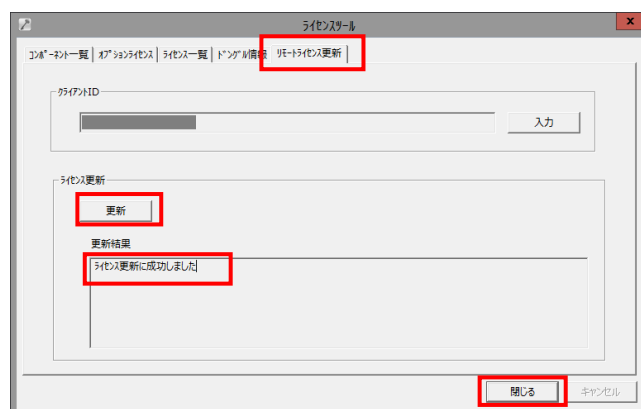
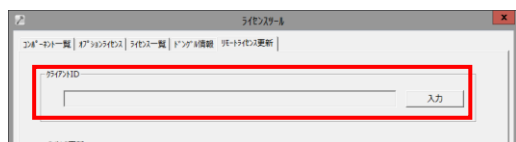


[リモートライセンス更新]タブをクリックし、[更新]ボタンを押します。

「ライセンス更新に成功しました」と表示されれば完了です。

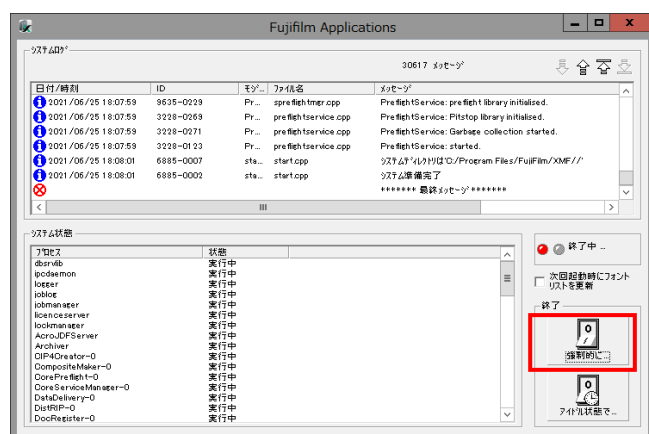


[クライアントID]欄が空欄のままの場合、バージョンアップができません。
IDの表示がない場合、弊社サポートへお問い合わせください。



3. アプリケーションの終了

XMFServerアプリを終了します。



4. アンチウイルスソフトの無効化

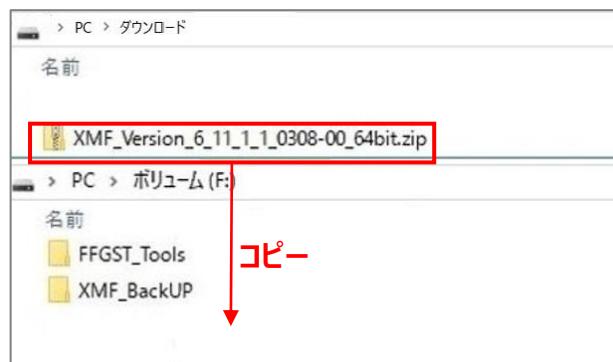
XMFServerにアンチウイルスソフトがインストールされている場合、「無効」します。



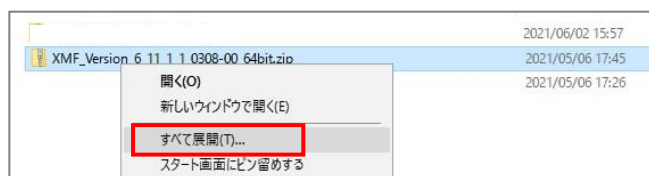
セキュリティソフトの影響でバージョンアップに失敗する場合がありますので、必ず無効にしてください。

6. ダウンロードファイルの解凍とコピー

ダウンロードフォルダに格納されたZipファイルをFドライブの直下にコピーします。



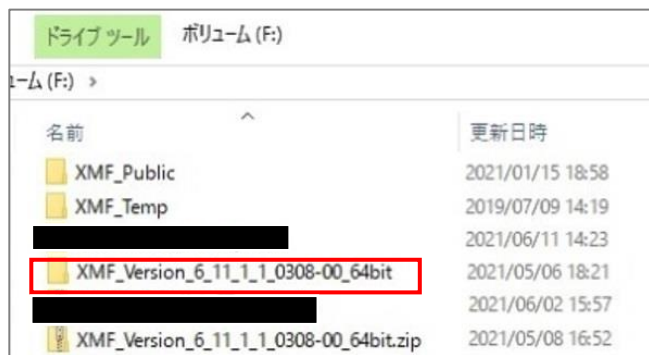
Fドライブ直下にコピーしたZipファイルを右クリックし、「すべて展開」を選んでZipファイルを解凍します。



フォルダ名は変更しないでください。
フォルダ名やファイル名を変更すると、インストーラが正常に起動しません。

また、数回ダウンロードした場合、フォルダ名の語尾に(1),(2)と付く場合があります。
その場合は語尾の数字を削除してください。

例.XMF_Version_6_11_1_1_03080-64bit(1)

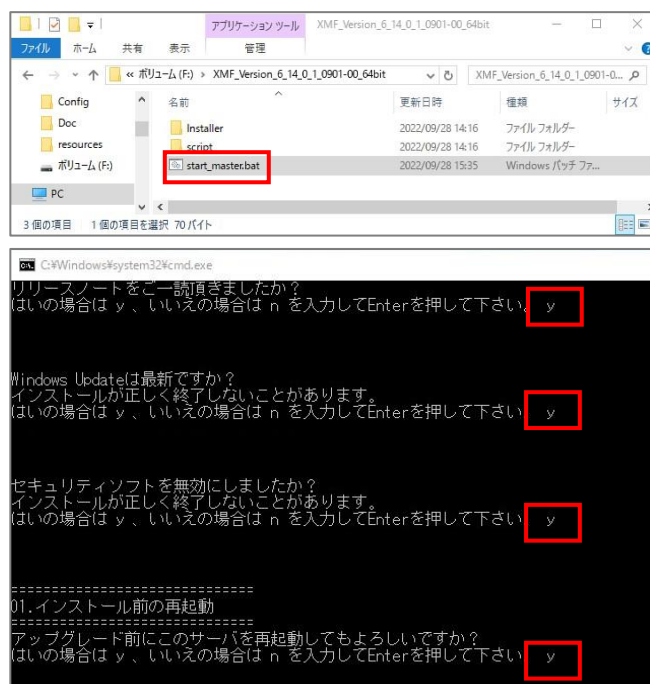


XMFアップデータ バージョンアップ手順書：インストール

1. インストーラの実行

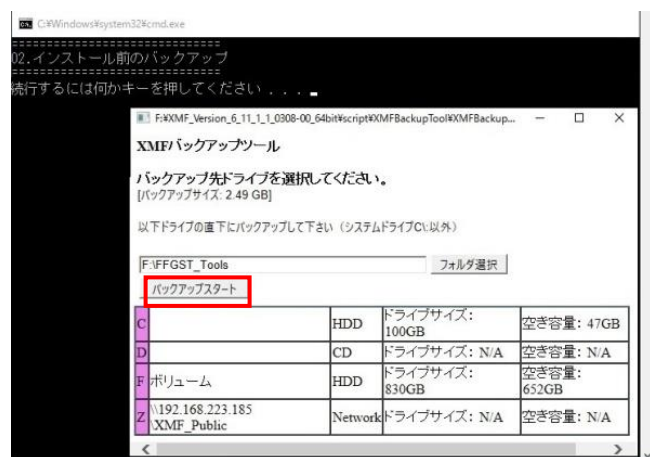
「XMF_Version6._*_64bit」フォルダ内の
「start_master.bat」をダブルクリックします。

表示されたDOSウィンドウ（黒いウィンドウ）の
メッセージに従い、キーボードの「y」または「n」を入力して、Enterを押してください。

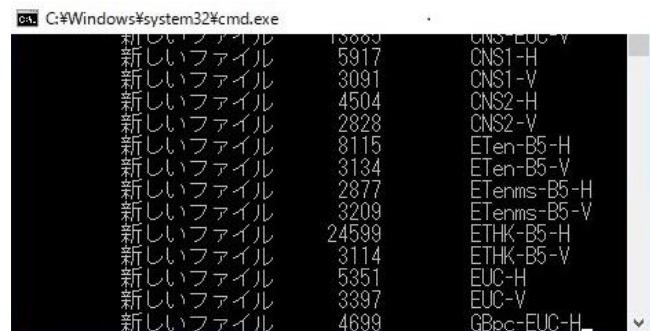


セキュリティによって上図が何度か表示が出る場合があります。全て、「実行(R)」を選択してください。

WindowsのOSが再起動され、バックアップ画面になります。保管場所に指定が無い場合は、「バックアップスタート」を押します。



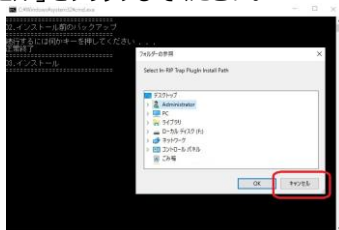
バージョンアップ前のバックアップが自動で実行されます。



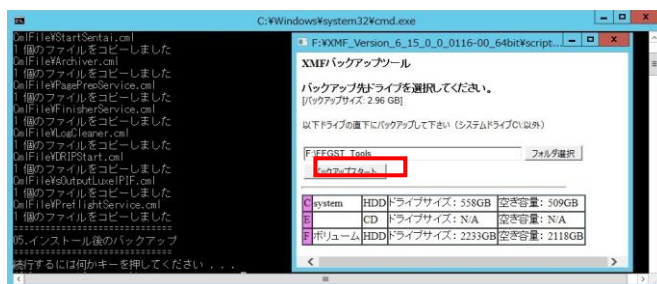
バックアップ後XMFのインストールが開始されます。



インストール中以下の所有されているライセンスの種類により、以下が表示する場合があります。
「キャンセル」をクリックしてください。

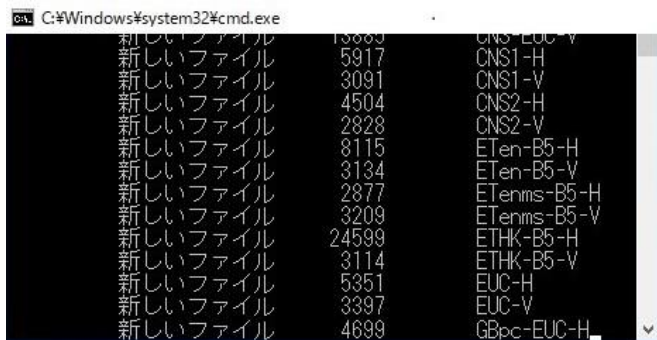


インストール完了後、右図のように後処理バッチが実行され、インストール後のバックアップ画面になります。
保管場所に指定が無い場合は、「バックアップスタート」を押します。

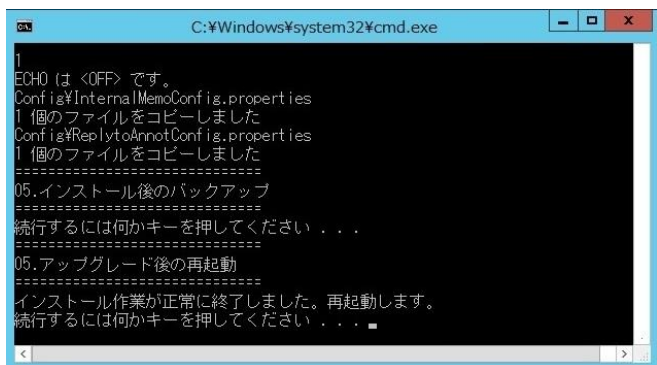


バックアップ後、「続行するには何かキーを押してください…」と表示するので、「Enterキー」などを押します。

バージョンアップ後のバックアップが自動で実行されます。



OSの再起動のため、「続行するには何かキーを押してください…」と表示するので、「Enterキー」などを押します。



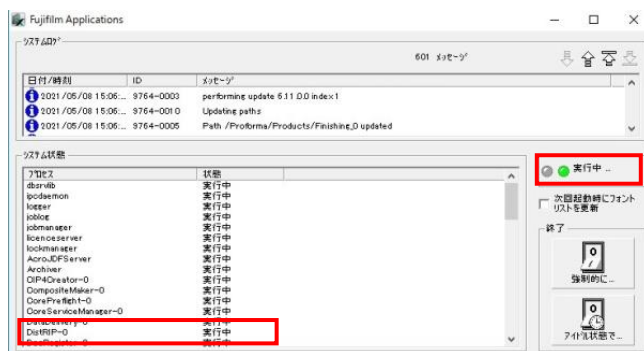
XMFアップデータ バージョンアップ手順書：起動確認

再起動後、XMFServerアプリを起動して、システム状態で「DistRIP-0」が実行中になっている事を確認してください。

最新バージョンにジョブを更新しているので、DistRIP-0が「実行中」になるまで15~90分かかる場合があります。



XMFServer以外のXMFClientについては別途バージョンアップが必要です。Client接続時に表示される手順に従いファイルをダウンロード・インストールをして完了してください。



XMFServerアプリ起動後、アプリ画面左上のマークを右クリックして、「About XMF Server...」をクリックすることでバージョンが確認できます。

適用されたバージョンになっていれば完了です。

